

三菱電機株式会社

「グローバル環境先進企業」を目指して

三菱電機株式会社
代表執行役 執行役副社長 大久保 秀之家庭から宇宙まで幅広い
分野で環境負荷を軽減

三菱電機グループは、「低炭素社会」「循環型社会」「生物多様性保全への対応」を柱とする『環境ビジョン2021』のもと、日本と海外での生産活動をはじめとするバリューチェーン全体の環境負荷低減と、環境負荷の少ない製品・サービスの開発と社会への普及を展開。

家庭から宇宙まで幅広い分野で事業展開においてすべての製品・システムで、エネルギー効率を高め、省エネルギー化を図り、低炭素社会の実現に向けて取り組んでいる。またその情報開示の透明性も高く評価されている。

生産拠点の改善や
環境教育にも力を注ぐ

2016年10月25日に行われたCDPの日本報告会では、大久保秀之代表執行役執行役副社長が登壇。同氏は

三菱電機グループが企業理念に基づき、「持続可能性」と「安心・安全・快適性」が両立する「豊かな社会」の実現に貢献する企業を「グローバル環境先進企業」と捉え、企業活動を行っている」と述べた。その観点において2015年に採択された「パリ協定」の発効は、三菱電機にとっても大きな機会であると考えていると話した。

また三菱電機グループは、高効率の製品やシステムの導入によるCO₂排出削減の貢献量は、自社の試算では事業活動で発生する毎年のCO₂排出量そのものの約50倍にも上っていることを紹介。今後はサプライチェーンにおける環境負荷低減だけではなく、「製品・システムの省エネルギー化」により低炭素社会の実現に貢献。省エネに加え、空調機では、地球温暖化係数の低い冷媒へ切替えを推進していることを紹介した。

さらに国内だけでなく、海外の生産拠点でも、温室効果ガスの回収と破壊を進めていることに加え、環境教育において昨年度は環境（Environment）をグループで9万3000人が受講している実績に触れた。そして「グローバル環境先進企業」として活動を進めていきたいと結んだ。